



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

今号目次

巻頭言

1ページ

新人紹介

2-3ページ

事務局通信

4-8ページ

学術局(成人)

9-10ページ

学術局(小児)

11ページ

学術局(生涯学習)

12ページ

学術局(新人教育)

13ページ

地域局

(北薩地区担当)

14ページ

社会局

(地域リハ・広域)

15ページ

社会局

(地域リハ・市内)

16ページ

社会局

(公共事業・保険)

17ページ

社会局(広報局)

18ページ

財務局

19ページ

編集勇誌

巻頭言

一般社団法人 鹿児島県言語聴覚士会
南薩地区担当理事 川路麻里亜

日頃より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

新年度が始まり、間もなく半年が経過しようとしております。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。今年度は診療報酬改定もあり、各施設においては対応や体制整備等にご尽力されたことと存じます。

私自身、言語聴覚士となってから早いもので11年が経ちました。この間にも、医療・介護・福祉における言語聴覚士の役割や働き方をはじめ、私たちを取り巻く環境は大きく変化していることを実感しています。変化のめまぐるしい時代ではありますが、新たな考え方を柔軟に取り入れつつ、これまで大切にされてきた価値観も尊重しながら、残り半年も共に邁進していきましょう。

さて、地域局では地域ごとに交流会、症例検討会、勉強会を開催しております。昨年度からは各地区で地域協力員を募り、地域局理事とともに会の企画・運営に携わっていただいております。コロナ禍を経て顔を合わせる機会が減ってしまいましたが、対面形式での開催も徐々に増えてきました。今後も、皆様と直接お会いし交流できる機会を増やしていきたいと考えておりますので、ぜひ奮ってご参加ください。また、地域局では公式LINEの管理・運営も行っております。登録者数は少しずつ増えておりますが、まだ登録がお済みでない方は、この機会にぜひご登録をお願いいたします。所属先の同僚の皆様にもお声掛けいただけますと幸いです。

公式LINE下部のバナーからは、学会・研修会一覧の確認や各種変更手続きが可能ですので、ぜひご活用ください。所属先の変更や改姓等の手続きがお済みでない場合など、LINEを通じて個別にご連絡を差し上げることがあります。その際はご返信いただけますと幸いです。なお、LINEでの個別のやりとりは、他の登録者が閲覧することはありませんので、どうぞ気軽にご連絡ください。

現在、LINEの配信数が増え、一つひとつの内容を確認しにくい状況もあるかと存じます。今後は文章を簡潔にし、見出しを掲載するなど、内容を把握しやすい配信方法を検討してまいります。ご意見・ご要望がございましたら、公式LINEまたは県士会ホームページのお問い合わせ窓口まで、ぜひお寄せください。

今後も、会員の皆様にとって身近で、つながりを感じられる場となれるよう活動してまいります。引き続き、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



新人紹介

いちき串木野市医師会立
脳神経外科センター

川畑 桃華

私は令和8年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業し、現在はいちき串木野市にあるいちき串木野市医師会脳神経外科センターで言語聴覚士として勤務しております。

当センターは脳神経外科専門病院として地域の救急医療から急性期、回復期、通所、訪問までの一貫した医療を提供しており、その中でも私は急性期のリハビリテーションに携わらせて頂いております。

入職当初は緊張と不安でいっぱい職場になれるのみ必死で、一日一日があっという間でした。リハビリ業務はもちろん、書類業務等でも覚えることが多く業務をこなすことで精一杯でした。入職して約半年が経過して少しずつ業務に慣れてきましたが、担当患者様が増え、自分の知識不足、未熟さを痛感しております。また学校で学んだ知識だけでは対応できないことも多く、自分一人だけでは解決できないことがたくさんあります。現在も、評価や訓練内容に悩んだ際は先輩に相談しアドバイスを頂いたり、同時介入をして頂いたり周りの方々のサポートを受けながら日々悩み、疑問を解決しています。

臨床現場に出て感じたことは、コミュニケーションの大切さ、仕事の責任感を感じることが多いです。フリートークが苦手な私はすぐに話が途切れたり、カルテには載っていない情報を聞き出そうと必死に一方的に話したりしていました。その際に言葉遣い、抑揚なども重要であると感じました。また、患者様のご家族とのコミュニケーションの大切さも重要であると感じました。日頃から積極的に自分からコミュニケーションをとり、成長できるように努力し続けていきたいです。

また、リハビリを拒否され、思うようにリハビリが出来なかったり、「これでよかったのかな」「先輩が担当だったらもっと良くなっていたのかな」と思い悩むことも多いです。そのような日々の中で担当した患者様から「私も頑張るからあなたも頑張りなさい」「あなたが来るのが楽しみだよ」「ありがとう」等の言葉をかけてくださり、「まだまだ頑張らないと」という気持ちになると同時に、言語聴覚士の仕事のやりがいを感じることができています。

入職して約半年が経とうとしていますが、まだまだ未熟な部分が多く、多くの学びがあります。今後も学びを大切にしながら、患者様一人一人にあったリハビリが提供できるように努力してまいります。



新人紹介

鹿児島大学病院 医療技術部
リハビリテーション部門 夏迫 朱梨

私は令和8年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、4月より鹿児島大学病院に勤務しております。

当院は「特定機能病院リハビリテーション病棟」20床を有しており、全国でも数少ない回復期病棟を有する大学病院です。診療科を問わず、超急性期から回復期まで一貫したリハビリテーションを提供していることが当院の特徴です。

リハビリテーション部門には、理学療法士30名、作業療法士12名、言語聴覚士7名が在籍しており、それぞれの専門性を生かしながリハビリテーションに取り組んでおります。また、学内外での研修会、学会発表等が盛んに行われており、さまざまな分野について研鑽を積むことができる環境が整っていることも、当院の特徴の一つです。

私は現在、急性期・一般病棟でのリハビリテーション業務に携わっております。入職当初は右も左も分からず、業務を覚えることに精一杯で、一日一日があっという間に過ぎていました。

入職してから早5か月が過ぎ、少しずつ業務にも慣れてきました。一方で、「自分が実施しているリハビリテーションは、本当に患者さんのためになっているのだろうか」と考える機会も増えてきました。

当院では、脳神経外科・内科に加え、呼吸器外科、口腔外科、耳鼻咽喉科頭頸部外科など、さまざまな診療科の患者さんを担当する機会があります。実際に初めて目にする疾患の患者さんを担当した際には分からないことばかりで、不安を抱えながら臨床に臨むこともありました。そのような中で、目の前の患者さんに現れている症状を丁寧に観察し、その背景にある神経学的所見や病態生理を理解することの重要性を感じるようになりました。なぜこの症状が生じているのか、どのような機序が関係しているのかを考え、その上で患者さんに必要な評価やアプローチを検討することが、私たち言語聴覚士に求められる役割の一つであると感じています。

日々、少しでも教科書や文献を調べる時間をつくり、根拠を持って臨床に臨めるよう努めています。しかし、知識を得るだけでは、必ずしも目の前の患者さんに適したリハビリテーションにつながるわけではないとも感じています。患者さん一人ひとりの症状や生活背景、思いを踏まえながら、得た知識を臨床へ繋げていけるよう努力していきたいと考えています。

まだまだ分からないことや悩むことも多く、その都度先輩方に相談し、ご指導をいただきながら臨床に取り組んでおります。今後も、学術的な考え方を大切にしながら、患者さん一人ひとりの笑顔につながるようなリハビリテーションを提供できる言語聴覚士を目指していきたいと考えております。

言語聴覚士として歩み始めたばかりですが、日々の出会いや学びを一つひとつ大切にし、これからも多くのことを吸収しながら、言語聴覚士として少しでも患者さんや医療に貢献できるよう、日々研鑽を積んでいきたいと思っております。

事務局通信

4月

会員動向について協議され承認された。

定時社員総会に関して協議され承認された。

鹿児島医療技術専門学校教育課程編成委員会委員選出について協議され松永理事を委員として承認した。

退会理由質問項目について協議され承認された。

地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業初期研修の開催について協議され承認された。

初期研修の修了証発行について協議され承認された。

聴覚部会部員動向について協議され継続審議となった。

鹿児島地域局員について協議され継続審議となった。

北薩地区症例研究会企画について協議され承認された。

言語聴覚士所属施設マップについて協議され承認された。

学術講習会懇親会計画について報告があった。

学術講習会進捗状況について報告があった。

医療的ケア児者に関する支援提供体制に関するアンケート状況について報告があった。

2026年度臨床実習指導者講習会について報告があった。

基礎講座名称変更について報告があった。

北薩地区地域局会議開催予定について報告があった。

監査について報告があった。

鹿児島市お達者クラブについて報告があった。

ホームページ掲載（広報）について報告があった。

訪問リハ実務者研修会について報告があった。

失語症者支援者養成について報告された。

PTOTST連絡協議会研修会について報告された。

会長動向について報告があった。

5月

会員動向について協議され承認された。

定時社員総会計画について協議され承認された。

社会局公共事業保健担当理事業務見直しについて協議され承認された。

地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業職研修講師費用について協議され承認された。

令和8年度第2回聴覚部会研修会計画について協議され承認された。

会費未納者について協議され退会となった。

令和8年度の介護実習普及センター講師派遣関連について報告があった。

学術講習会進捗状況について報告があった。

令和8年度臨床実習指導者講習会について報告があった。

令和8年度上半期生涯学習初期講座について報告があった。

公式LINE登録者数について報告があった。

北薩地区地域局会議について報告があった。

言語聴覚士所属施設マップについて報告があった。
訪問リハ地域リーダー会議について報告があった。
会長動向について報告があった。

6月

会員動向について協議され承認された。
鹿児島市口腔保健連絡協議会の委員推薦について協議され湯田理事を委員として推薦することが承認された。
第18回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会後援依頼について協議され後援承認となった。
研修講師費用の訂正について協議され承認された。
令和9年度学術講習会の特別講師案について協議され継続審議となった。
第28回新人教育研修会企画案について協議されしょうにんされた。
鹿児島地区地域局局員追加について協議され承認された。
北薩地区交流会について協議され承認された。
島嶼地域会員に対しての会費納入のお知らせ送付について協議され承認された。
部局員および地区の協力員名簿作成について協議され承認された。
失語症者向け意思疎通支援者養成講習会の他団体への広報について協議され承認された。
失語症者向け意思疎通支援者指導者募集について協議され承認された。
健康関連団体による県民の健康づくり推進に係る取り組み実績等について協議され承認された。
リハビリテーションケア合同研究大会鹿児島2028運営協力団体依頼について協議され承認された。
糸賀一雄記念賞・記念未来賞候補 応募について協議され継続審議となった。
地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業初期研修について報告があった。
鹿児島市お達者クラブについて報告があった。
令和8年度専門職アドバイザーについて報告があった
ホームページ掲載（広報）について報告があった。
聴覚部会会議について報告があった。
令和8年度第1回聴覚部会研修会について報告があった。
令和8年度学術講習会開催報告があった。
鹿児島医療技術専門学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会会議について報告があった。
鹿児島市医師会違法寄稿依頼について報告があった。
北薩地域局会議について報告があった。
北薩地区症例研究発表会について報告があった。
言語聴覚士所属施設マップについて報告があった
JIMTEF災害医療研修について報告があった。
全国協会活動支援金入金の報告があった。
会費引き落としについて報告があった。
JRAT総会について報告があった。
訪問リハ地域リーダー会議について報告があった。
訪問リハステップアップ研修会案内について報告があった。

失語症者支援者養成について報告された。
会長動向について報告があった。

7月

会員動向について協議され承認された。
快護フェス！2026福祉機器展&セミナー in かごしま後援依頼について協議され承認された。
南薩圏地域域リハビリテーション広域支援センターより、広域支援センター講演会への講師派遣依頼について協議され承認された。
地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業初期研修事前打ち合わせの開催について協議され承認された。
地域リハ推進リーダー研修参加要件について協議され継続審議となった。
言語聴覚の日イベント配付用風船のレイアウトについて協議され承認された。
産休、育休に伴う聴覚部会部員の追加について協議され承認された。
聴覚部会啓発資料について協議され承認された。
令和9年度学術講習会の講師案について協議され承認された。
小児研修会計画について協議され継続審議となった。
令和9年度以降の臨床実習指導者講習部会の謝金について協議され承認された。
令和9年度臨床実習指導者講習部会の計画および予算案について協議され継続審議となった。
令和9年1月開催予定の臨床実習指導者講習会会議の計画会議について協議され継続審議となった。
南薩地区勉強会について協議され承認された。
鹿児島県理学療法士連盟・協会リーダー研修会について協議され承認された。
地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業初期研修について報告があった。
鹿児島市お達者クラブについて報告があった。
推進リーダー研修会関連の報告があった。
ホームページ掲載（広報）について報告があった。
言語聴覚の日イベント進捗状況の報告があった。
ニュースペーパーについて報告があった。
令和8年度第1回聴覚部会研修会の報告があった。
鹿児島医療技術専門学校関係者評価委員会について報告があった。
第28回新人教育研修会進捗の報告があった。
令和8年度上半期生涯学習初級講座について報告があった。
令和8年度臨床実習指導者講習会について報告があった。
鹿児島市医師会違法寄稿依頼について報告があった。
第43回市民健康まつり協力団体依頼について報告があった。
北薩地区交流会開催予定について報告があった。
JIMTEF災害医療研修について報告があった。
大隅地区症例研究発表募集について報告があった。
会費引き落としについて報告があった。
鹿児島JRATの活動計画について報告があった。
鹿児島訪問リハ研究会ステップアップ研修会の案内について報告があった。
PTOTST代議員総会について報告があった。
島嶼地域への説明会について報告があった。

会長動向の報告があった。

8月

会員動向について協議され承認された。

川薩地区ろうあ協会「手話通訳者養成事業手話通訳Ⅱ課程への講師派遣」に関して協議され継続審議となった。

南九州市長寿介護課「ヒアリングフレイル講座の講師派遣について（依頼）」について協議され聴覚部会より講師を選出することとなり、櫻井氏を講師推薦することが承認された。

社会福祉法人建昌福祉会「障害児保育担当者研修会」の講師について松永氏を講師推薦することが承認された。

言語聴覚の日事業協賛協力費について承認された。

令和9年度学術講習会の講演内容について協議され継続審議となった。

次年度以降の臨床実習指導者講習部会の謝金等について協議され承認された。

次年度臨床実習指導者講習部会の計画・予算について協議され承認された。

北薩地区交流会における協力費について協議され承認された。

JIMTEF災害医療研修の再案内について協議され承認された。

島嶼地区会員の連絡方法について協議され承認された。

熊本地震に関わる熊本県言語聴覚士会へ支援金を送ることについて協議され承認された。

士会協会間の連携体制構築に向けたアンケート調査について協議され承認された。

クリアスピーチ法開催の案内並びに周知依頼に関して協議され承認された。

地域リハビリテーション活動支援推進初期研修について方向があった。

鹿児島市お達者クラブについて報告があった。

推進リーダー研修会関連の報告があった。

ホームページ掲載（広報）について報告があった。

言語聴覚の日イベント進捗状況の報告があった。

ニューズペーパーについて報告があった。

聴覚障害児支援事業について報告があった。

聴覚部会ミーティングについて報告があった。

令和9年度学術講習会計画について報告があった。

第28回新人教育研修会 進捗について報告があった。

令和8年度上期生涯学習初級講座について報告があった。

第43回市民健康まつりについて報告があった。

JIMTEF災害医療研修について報告があった。

公式LINE運用について報告があった。

士会に関わる領収書の取り扱いについて報告があった。

島嶼会員へのお知らせ送付について報告があった。

問リハステップアップ研修会について報告があった。

熊本地震関連の報告があった。

会長動向の報告があった。

9月

会員動向について協議され承認された。

令和9年度および令和10年度介護認定審査会委員に関して協議され末吉理事推薦について承認された。

聴覚部会啓発資料をLINE配信することについて協議され継続審議となった。

令和9年度学術講習会の講演内容について協議され継続審議となった。

新人教育茶話会経費について協議され承認された。

鹿児島市口腔保健連絡協議会報告内容について協議され承認された。

鹿児島地区症例研究発表会について協議され承認された。

JIMTEF災害医療研修について協議され、理事会にて報告することについて承認された。

災害対策部員増員について協議され承認された。

令和8年度高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に係る市町村等セミナー出席者について協議され、竹中会長、末吉理事、石原理事を出席者として承認された。

全国協会学校教育連携担当者連絡協議会出席者について協議され松永理事を出席者として承認された。

社会局公共事業保健関連講師派遣について報告があった。

令和8年度下期お達者クラブ関連について報告があった。

令和8年度推進リーダー研修関連について報告があった。

ホームページ掲載（広報）について報告があった。

言語聴覚の日イベント進捗状況の報告があった。

ニューズペーパーについて報告があった。

第2回 聴覚部会研修会について報告があった。

第28回新人教育研修会 進捗について報告があった。

令和8年度上期生涯学習初級講座について報告があった。

第43回市民健康まつりについて報告があった。

手話通訳者養成事業手話通訳Ⅱ課程講師派遣進捗について報告があった。

JIMTEF災害医療研修について報告があった。

大隅地区症例研究発表会について報告があった。

島嶼地域の会員の方へのお知らせについて報告があった。

熊本地震の支援金について報告があった。

地域局協力員等の名簿作成依頼について報告があった。

熊本地震関連の報告があった。

会長動向の報告があった。

2026年9月理事会承認分まで

学術局 (成人)

普段の臨床で「この方に最適な評価や訓練は何だろう？」と考えた時、真っ先にどうやって確認しているでしょうか？個人的には、診療ガイドラインを確認することが多いように思います。そもそも診療ガイドラインとは、日本リハビリテーション医学会によると「臨床家が特定の臨床上的問題に対し、適切なヘルスケアを提供することを助けるために系統的に作成された勧告」とされています。疾患別や障害別など関連学会から多くの診療ガイドラインが示されており、EBM（根拠に基づく医療）を提供する上で重要な要素となっています。ここで注意したい点として、診療ガイドラインを確認しエビデンスの高い評価や訓練を行うことは妥当ですが、EBMには他にも臨床家の専門性、患者の価値観、患者の臨床状態と環境という要素があります。エビデンスだけでなく、臨床家の経験を含む専門性や患者の価値観（複数ある治療選択肢の中から、患者がどの治療を希望するか）も考慮して治療を決定していくことが重要とされています。

上記を踏まえ、先日、10年ぶりにアメリカ心臓協会とアメリカ脳卒中協会による改訂版が発表された「成人脳卒中リハビリテーション・回復ガイドライン2026」について、今回は摂食嚥下障害に関する内容の一部をご紹介します。

【推奨クラス（強さ）】
クラス1（強い）
クラス2a（中程度）
クラス2b（弱い）
クラス3：効果なし（中程度）
クラス3：有害（強い）

【エビデンスレベル（質）】
レベルA
レベルB-R（ランダム化）
レベルB-NR（非ランダム化）
レベルC-LD（限定的なデータ）
レベルC-EO（専門家の意見）

1. 嚥下スクリーニングは入院後できるだけ早く（24時間以内）、食事や飲水、経口薬の服用を開始する前に実施し、精査が必要な患者を特定する必要がある。【クラス1】 【レベルB-R】
2. 嚥下スクリーニングは正式に検証されたツールを使用して実施し、嚥下障害リスクのある患者を特定する必要がある。【クラス1】 【レベルB-NR】
3. 嚥下障害が疑われる場合、より正確な治療計画を策定するためにVFやVEのような機器を用いた検査を選択すべきである。【クラス1】 【レベルB-NR】
4. 嚥下障害のリスクのある患者を特定するために入院後24時間以内に嚥下スクリーニングを実施することは妥当である。【クラス2a】 【レベルC-LD】
5. 嚥下障害のリスクのある患者を特定するために言語聴覚士、看護師、又はその他の訓練を受けた医療従事者により嚥下スクリーニングを実施することは妥当である。【クラス2a】 【レベルB-R】
6. 経口薬の安全かつ効率的な投与方法を決定するために錠剤の嚥下を評価することは妥当である。【クラス2a】 【レベルB-NR】
7. 嚥下障害が疑われる場合、生体力学的理由を特定し、治療計画を策定するために嚥下評価の補助として口腔、咽頭、喉頭の感覚機能および口腔と咽頭の嚥下圧を評価することは妥当である。【クラス2a】 【レベルB-NR】

学術局 (成人)

8. 入院後4日以内または抜管後24時間以内に嚥下機能検査を行うことは、最も制限の少ない食事を特定するために妥当である。【クラス2a】 【レベルC-LD】
9. 嚥下障害の回復を促進し最も制限の少ない食事を特定するために急性期退院後3ヶ月以内に包括的な嚥下評価を繰り返すことが妥当である。【クラス2a】 【レベルB-NR】
10. 嚥下訓練は、嚥下機能の改善、食形態の許容度向上、健康への悪影響のリスクの軽減、QOLの向上に効果的である。【クラス1】 【レベルB-NR】
11. バイオフィードバックは、嚥下機能の改善、食形態の許容度向上、健康への悪影響のリスクの軽減、QOLの向上において、嚥下訓練への有用な補助となり得る。【クラス2a】 【レベルB-R】
12. 嚥下機能の改善、食形態の許容度向上、健康への悪影響のリスクの軽減、QOLの向上を目的として、咽頭電気刺激（PES）が検討される場合がある。【クラス2b】 【レベルB-R】
13. 嚥下訓練に加えて神経筋電気刺激（NMES）を行うことによる嚥下機能の改善、食形態の許容度向上、QOLの改善効果は不明である。【クラス2b】 【レベルB-R】
14. アトロピン又はボツリヌス毒素注射による薬物療法は、流涎症状の軽減に有効である可能性がある。【クラス2b】 【レベルB-NR】
15. 栄養状態の改善、機能的転機改善の改善、有害事象の軽減のために早期の栄養サポートが推奨されます。【クラス1】 【レベルB-R】
16. 亜急性期および慢性期において、栄養サポートは機能的転機改善に有効である。【クラス1】 【レベルB-NR】
17. 安全に嚥下できない慢性期の患者において、栄養状態の改善と有害事象の軽減のために胃瘻が経鼻胃管よりも推奨されます。【クラス1】 【レベルB-NR】
18. 安全に嚥下できない患者に対する短期的な栄養サポートとして、経鼻胃管よりも経鼻空腸管または間欠的経口食道管栄養を検討することが妥当である【クラス2a】 【レベルB-R】

今回の改訂では、脳卒中後嚥下障害を早期に発見し、病態に応じた個別的な嚥下リハビリテーションと栄養管理に繋げることが強調されたように思います。

それぞれの項目の補足説明文や他の障害のガイドラインについては、下記の原文をご確認いただけますと幸いです。

[Richards LG, Ifejika NL, Stein J, et al : 2026 Guideline for Adult Stroke Rehabilitation and Recovery : A Guideline From the American Heart Association and American Stroke Association, Stroke, 2026.](#)

鹿児島大学病院 医療技術部
リハビリテーション部門 川路 勇太
【Mail】 k6717465@kadai.jp

学術局 (小児)

私の勤める事業所では、賑やかだった夏休みの忙しさも一段落し、子どもたちとともに少しずつ2学期への切り替えを進めているところです。

発達部会では、日頃から小児分野に携わる会員同士が学び合い、支え合う機会づくりに取り組んでいます。今回は、令和8年2月に開催した研修会・交流会のご報告と、今年度の活動予定についてお知らせいたします。

小児研修会・交流会を開催しました

令和8年2月22日、かごしま国際交流センターにて発達部会主催の小児研修会を開催しました。会場は季節の飾りつけが施された新しく美しい建物で、鹿児島市はもちろん、北薩・大隅・南薩地区からも多くの方にご参加いただき、参加者は25名となりました。

午前は臨床心理士・公認心理師の立本先生をお招きし、ご講演をいただきました。午後は「事例検討」「保育所等訪問支援」「ST業務」の3つのテーマに分かれて交流会を実施しました。どのグループでも活発な意見交換が行われ、日頃の成功体験や悩み、疑問を共有する有意義な時間となりました。参加者からは「さまざまな取り組みを知ることができ、参考になった」といった感想も寄せられています。

発達部会が目指すもの

発達部会は、会員同士の「顔の見える関係づくり」と「横のつながりの強化」を目指して活動しています。今回の研修会・交流会も、その理念を形にする大切な機会となりました。

今年度の活動予定

前回の参加者アンケートでは、「交流会の開催回数を増やしてほしい」「地域ごとに開催してほしい」といった声が多く寄せられました。これを受け、今年度は開催地域を増やす方向で企画を進めてまいります。

おわりに

私自身日々の臨床の中で、保育園や小中学校、児童クラブを訪問する機会があります。個別や小集団の場で身につけた力を、いかにご家庭や園、学校といった実際の生活の場面で活かしていけるかを考える機会が増えています。検査や訓練の結果だけでなく、その子が実際にどう生活しているか、という視点（ICF＝生活機能の考え方）を大切にすることの重要性を、改めて感じる毎日です。

こうした一人ひとりの臨床での気づきを、会員同士で共有し、支え合っていくこと。それこそが支援の質の向上へとつながり、ひいては地域の子どもたちや保護者の皆さまが安心して相談できる環境を広げることにつながります。発達部会では、これからも顔の見えるつながりを大切にしながら、地域に根ざした活動を続けてまいります。

発達部会担当
通所支援事業所はなうた
下村 晃生

学術局 (生涯学習)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力頂き、誠にありがとうございます。研修報告を2件行わせて頂きます。

1、生涯学習基礎講座（2026年度より初級講座）

2026年3月8日(日)に基礎講座5「職能団体の役割と言語聴覚士の責務」と基礎講座6「エビデンスに基づく臨床(EBP)と研究法の基礎」を講師に有川 瑛人氏(加治木温泉病院)をお招きし、ハイブリッド(現地/WEB)開催致しました。基礎講座5・6ともに総数24名(県内現地16名、県内WEB8名)に参加して頂きました。

上記の通り、当日の会場参加者は16名となり、県士会員同士の交流も増えてきており、嬉しく思います。現地かWEBで迷った場合は是非会場まで来て頂けると、新たな出会いや日頃の臨床の悩みが相談し合える場となり、より有意義な時間が過ごせるかもしれません。

基礎講座5では、全国協会や県士会の役割について、分かりやすく、具体的な講義となりました。STとして、協会活動や研修・活動にまずは参加することがSTを盛り上げる第1歩だと思います。

また、全国協会と士会の一体化の取り組みも始まってきています。この基礎講座も申請や報告がホームページ上で簡潔に行えるようになってきており、全国協会ともすぐに連携が行える形作りが行われています。今後より連携が深まっていくことを考えると全国協会・県士会どちらにも携わって頂けたらと思います。

基礎講座6では、研究法の基礎について、経験を踏まえて、臨床の考え方で含めて話して頂きました。講師が楽しそうに話をされている姿を見て、私自身もまずは症例をまとめたいという気持ちになりました。論文についての話もあり、検索の行い方等、明日から使えるものも多くあり、より症例を深めていけることと思います。また、研究開始の際は倫理指針に関してもしっかりと学んで頂けたらと思います。

2、鹿児島県言語聴覚士臨床実習指導者講習会

鹿児島県言語聴覚士臨床実習指導者講習会を2026年7月4日(土)・5日(日)で実施致しました。

今年は5月総会にて鹿児島県言語聴覚士会で発足となった臨床実習指導者講習部会での実施となりました。会議やメールでのやりとりを含め、かなりの時間を費やして実施に至っております。免許証の氏名や登録番号・登録年月日は申し込み時に誤りなく入力できているでしょうか?全国協会のマイページと同じになっているでしょうか?この確認にかなりの時間がかかりますので、今後参加される方は今一度ご確認してお申し込み下さい。また、パソコントラブルも講習会中に起こっており、残念ながら終了できない方も今回は出てしまいました。研修前の確認を必ず行って下さい。

いろいろ決まりは守りつつ、内容自体は「何回聴いても為になる。」、「皆様の意見がとても参考になる。」、「WEBなのに顔の見える繋がりとなる。」、「実習の概念が変わった」そして、「時間が長い(笑)」等の多くの肯定的な意見があります。時間の方は16時間以上となっていますので、どうにもできませんので忍耐力も鍛えられると考えて頂ければと思います。

臨床実習指導だけでなく、後輩育成等の教育方法やハラスメント等を知ることができ、様々な評価方法、さらにはグループワークでの役割やまとめ方についても学ぶことができたことと思います。まさに生涯学習にふさわしいプログラムになっています。鹿児島県言語聴覚士会臨床実習指導者講習部会では「言語聴覚士臨床実習指導者講習会」を次年度も開催できるように準備を進め、案内をしていく予定としています。言語聴覚士の未来の為に5年目以上(経験年数4年以上)の方は是非、次年度予定の講習会参加をお願い致します。今後とも、何卒よろしくお願い致します。

また、2026年9月27日(日)に初級講座1「言語聴覚士の倫理」と初級講座2「臨床実践(基礎)」を講師に松永 宏行氏(standup合同会社 ことばの相談室 みかんの樹)をお招きし、ハイブリッド(現地/WEB)開催致しました。次回号で結果等の報告をさせて頂けたらと思います。

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター 地域医療連携室 尾崎 幸平

TEL : 0993-32-9999

FAX : 0996-32-0496

学術局 (新人教育)

第28回の新人教育研修会は、11月8日（日）に、「呼吸からみる嚥下障害－呼吸生理と嚥下の基礎・治療機器活用の実例－」と題し、今村総合病院の香川勇治先生にご講話をいただきます。臨床で診る機会が多い嚥下障害について、呼吸機能の観点から改めて学びながら、治療機器の活用についてもご紹介をいただく予定です。新人だけでなく、中堅からベテランの先生まで学びが深まる内容です。明日からの思考が広がる時間になるのではと楽しみにしております。

また、今回は研修会の後に茶話会を企画しています。研修会会場は養成校ではなくカフェスペースの会議室です。ケーキとコーヒーをいただきながら、自分の現状や今後のキャリア、その他仕事に関係のない話など、多くのことを語り合う場になればと思います。とても景観がよく素敵な場所で、高速道路のインターからも近くアクセスも良いです。養成校時代の同期や先輩後輩、職場の同僚などお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。他施設のSTとの縁を楽しむ時間にもなればと考えております。会場の都合上、茶話会の時間は短めとなっております。ケーキは急いで口につめこみ、ムセこみに注意しながら上手にコーヒーで流し込み、ついでに桜島を横目でチラチラ見ながらご歓談いただくのもいいですね！楽しくわいわいとした時間になれば幸いです。申し込みは県士会ホームページ、または公式LINEからお願いいたします！

年数に関わらず、新人から中堅、ベテランまで多くのご参加をお待ちしております！

学術局 新人教育担当

発達サポート教室 たのシード 木佐貫太陽

研修会の希望・要望はこちらまで！

【taiyo.kisanuki.st@gmail.com】



地域局（北薩地区担当）

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力いただき、ありがとうございます。北薩地区担当の倉山です。

私は2023年より地域局理事を務め、現在4年目となります。私自身、北薩地区には10年以上住んでいますが、10年前は定期的な交流会や勉強会などが各地域で開催されており、同じ地域で活動する言語聴覚士（ST）が「どこで、どのような活動をしているのか」を把握しやすい環境でした。一方、私が地域局理事に就任した当時は、症例研究発表会や勉強会などの活動がオンライン中心となっており、同じ地域に所属していても「どこに、どのようなSTがいるのか」が分かりにくい状況になっていました。

鹿児島県は広いことから、地域局は「鹿児島地区（島しょ地域含む）」「北薩地区」「始良・霧島地区」「南薩地区」「大隅地区」の5地区に分かれています。その中でも北薩地区は、薩摩川内市、いちき串木野市、日置市、出水市、阿久根市、伊佐市、さつま町、長島町、湧水町と、非常に広い地域を含んでいます。地域局の役割の一つに、各地域の組織化に向けた活動があります。現在、北薩地区では、薩摩川内市、いちき串木野市、日置市、伊佐市に地域協力員を配置し、協力員を中心に県士会活動への参加や地域での交流を進めています。地域協力員とは、地域で実施する県士会活動について、地域局理事とともに企画・運営などに協力していただく制度です。昨年より各地区で協力員を選定し、活動を行っています。

北薩地区では7月に、地域協力員の協力のもと、いちき串木野市で北薩地区交流会を開催しました。今後もこのように、さまざまな地域で現地開催の活動を行うことで、会員の皆様がより参加しやすく、顔の見える関係を築ける機会を作っていきたいと考えています。また、地域協力員として県士会活動と一緒に盛り上げていただける方も随時募集しています。ご協力いただける方は、公式LINEよりお気軽にご連絡ください。

今後は、各地区で症例研究発表会を企画していく予定です。まだ発表経験のない方も、この機会にぜひご応募ください。さらに、地域局では臨床業務に関する相談への対応も行っています。公式LINEでは県士会からの情報発信を行っているほか、下部のバナーから県士会ホームページへ直接アクセスできるようになっています。学会・研修会の情報や各種変更手続き、お問い合わせなどにもご活用いただけます。また、公式LINEから個別にご連絡いただくことも可能です。個別のやり取りは他のLINE登録者が閲覧することはできませんので、臨床に関する相談や県士会へのご要望など、気軽にご活用ください。

今後も、会員の皆様が「つながりやすく、参加しやすい」県士会活動を目指して取り組んでいきたいと思います。引き続き、皆様のご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。



社会局（地域リハ・広域担当）

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

まだまだ残暑が厳しいですが、体に気をつけてこの暑さを乗り切りましょう。
令和8年8月9日に「地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修」を実施しました。今回はベテランから若手まで4名の方にご参加いただきました。

講師に米盛病院の石原禎人先生、南風病院の樋渡健太郎先生、鹿児島大学病院の川路勇太先生をお招きし、「地域包括ケア」「介護予防」についての講義とグループワークを行いました。

参加者の背景は、「今は病棟主体だがいずれは地域のリハビリにも従事したい」「今後地域に出ていく予定がある」など様々です。

疾患に関する勉強会とは違って、退院してからの患者様を取り巻くサービスや支援について学ぶことができるため、普段地域に関わりがない方にとっても「退院後の生活を知る」という意味ですごく勉強になる内容だと思います。また、現在病棟勤務をされている方にもぜひ知っていてほしい内容が多く含まれていますので、お時間があればぜひ一度研修を受けてみてください。

鹿児島県では労働者人口が減少し、少人数で数多くの高齢者層を支える時代に突入しています。そして、2040年問題（鹿児島ではもっと早いと言われています）も待ち構えております。地域において、嚥下障害・難聴・認知症・介護予防など、STに求められる役割はまだまだ溢れている状況です。地域で活躍できるSTを増やし、みなさんで地域を支えていきましょう。

ぜひ、ご興味のある方は向井までご連絡いただけますと幸いです。

社会局 地域リハ・広域担当
整形外科松元病院 向井 優善



社会局（地域リハ・鹿児島市担当）

朝夕は、だいぶ過ごしやすい気候となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？

さて、「地域包括ケアシステム」も2040年とその先を見据え深化・推進の段階に入りました。引き続き、介護予防の観点から私たち言語聴覚士に期待される役割は非常に大きいものがあります。

高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく会議体である地域ケア会議への専門職としての参加や、介護予防事業の一環である地域住民主体の通いの場であるお達者クラブへの講師派遣等が、これに該当します。

ご存じの方も多いかとは思いますが、鹿児島市が対応しているこれらの介護予防事業に参加するためには、従事者の質を担保するためにも、県土会やPTOTST連絡協議会で実施している研修会への参加が必須となります。

しかし、引き続き、地域からの要望があるにもかかわらず、十分に対応できる言語聴覚士の数確保できていない現状があります。

地域で生活する高齢者の方々の要望に応えることができるよう、より充実した介護予防事業が展開できるよう、活動してみませんか？

「興味はあるけどよくわからない」という方もいらっしゃるかもしれません。

ご質問やお問い合わせのある方は、下記までどしどしご連絡ください。

鹿児島の地域リハビリテーションを私たちの力で、もっともっと盛り上げていきましょう！！

社会局地域リハビリテーション鹿児島市担当 石原禎人
お問い合わせ：yishihara@yonemorihp.jp



社会局（公共事業・保険担当）

介護離職を防ぐために

～「ビジネスケアラー」を知っていますか？～

近年、「ビジネスケアラー」という言葉を耳にする機会が増えてきました。ビジネスケアラーとは、仕事をしながら家族等の介護を行う人を指します。

高齢化が進む一方で、生産年齢人口が減少する我が国では、仕事と介護の両立が大きな社会課題となっています。経済産業省は、2030年には家族介護者のうち約4割、約318万人がビジネスケアラーとなり、仕事と介護に関する経済損失が約9.1兆円に上ると推計しています。特に、その大部分を占めるのは介護離職そのものによる損失ではなく、仕事と介護の両立が困難になることによる労働生産性の低下です。

こうした状況を受け、2025年4月には改正育児・介護休業法が施行されました。事業主には、介護休業や仕事と介護の両立支援制度を利用しやすい職場環境の整備、介護に直面した労働者への制度の個別周知・意向確認に加え、介護に直面する前の早い段階（40歳等）での情報提供が義務付けられています。

ここで知っておきたいのが、「介護休業」の考え方です。介護休業は、自分自身が長期間介護を行うための休みではありません。介護サービスの利用や家族内での役割分担、地域包括支援センターやケアマネジャーへの相談など、仕事と介護を両立するための体制を整える期間として活用することが重要です。

私たち言語聴覚士は、失語症を含む高次脳機能障害、構音障害、摂食嚥下障害などに対するリハビリテーションを通して、患者・利用者の生活再建に関わっています。その中では、機能面へのアプローチだけでなく、退院後や在宅での生活、家族構成、家族の就労状況、支援体制などにも目を向けることが大切です。

家族が仕事を続けながら支援を担っている場合には、必要に応じて医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャーなどの多職種と情報を共有し、適切な制度や社会資源につなげていく視点も求められます。言語聴覚士はリハビリテーション専門職として、患者・利用者とその生活を支える中で、家族の状況にも目を向けることが重要だと考えます。

また、私たち言語聴覚士自身も、一人の生活者として、ある日突然家族の介護に直面する可能性があります。「その時になってから考える」のではなく、利用できる制度や相談先をあらかじめ知っておくことも、仕事を続けながら介護と向き合うための備えになります。

令和8年度 公共事業の活動について

鹿児島県言語聴覚士会では、社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会 介護実習・普及センターと連携し、介護知識・技術の普及に関する講師派遣を行っています。

令和8年度は2件の講師派遣依頼をいただいております。8月28日（金）には、県民向けのやさしい介護教室「ここに注意！誤嚥をふせぐ食事の介助方法」が開催され、13名の方にご参加いただきました。講師は黒木 康氏が担当しました。今後は、11月26日（木）にカクイックス交流センターにて同講座を開催予定で、松尾 康弘氏が講師を担当する予定です。

厚生労働行政の動向

令和8年9月、理学療法士を専門職としての出発点とする田中昌史衆議院議員が厚生労働大臣政務官に就任しました。

田中氏は9月18日の自身のホームページにおいて、法務省・厚生労働省から、在留資格「医療」の対象に言語聴覚士を追加することについて説明を受けたことを明らかにしています。この事項は「リハビリテーションを考える議員連盟」として要望してきたものであり、田中氏は令和9年4月からの施行を目指す考えを示しています。

言語聴覚士は、摂食嚥下、高次脳機能、コミュニケーション支援などを通して、地域医療や高齢社会を支えるリハビリテーション専門職です。在留資格「医療」の対象への追加は、今後の言語聴覚士の人材確保や働き方にも関係する制度動向の一つとして、引き続き注視していく必要があります。

社会局（公共事業・保険）では、今後も診療報酬・介護報酬だけでなく、医療・介護・福祉を取り巻く制度や社会の動きについて、会員の皆様に身近な話題としてお伝えしていきたいと思っております。

医療法人 玉昌会 加治木温泉病院 総合リハビリテーションセンター
末吉 孝行

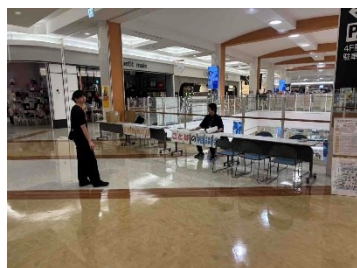
参考

経済産業省「サステナブルな高齢化社会の実現に向けた調査」
厚生労働省「介護休業制度特設サイト」「育児・介護休業法について」
首相官邸「第2次高市改造内閣 大臣政務官名簿」社会局（公共事業・保健担当）記事

社会局（広報担当）

言語聴覚の日 ことばの相談会

今年もやってきました言語聴覚の日！今年は9月6日（日） イオンモールKAGOSHIMA BAYにて開催しました。台風の影響で荒れ模様の天気でしたが、そんなことを言っている場合ではなく開店前にせっせと準備に取り掛かります。広報部員の2人も協力してくれました（いつもありがとうございます）！3人でパネルの位置やのぼりの位置、相談会のブースはどうやったら分かりやすい？など試行錯誤してようやく準備完了☆風船も膨らましていつでも配れます。



今回は各階でイベントが行われているようで終始にぎやかな館内でしたが、われわれもブース近くを通る人たちへ声をかけたり、風船を配ったり猛アピールします（だが、さすがにポチャ○コには敵わず 笑）。すると、嬉しいことに無邪気な子供たちが風船めがけて走ってきます気付けば200？300？ほどの風船を膨らましていました。

今年の相談は、

- ・「言葉が遅いです」や「発音が未熟です」。どんな練習方法がありますか？
- ・吃音がでました。今後の対応はどうしたら良いですか？
- ・訓練や療育はどこでできますか？

などが主でした。イベントメンバーは何度も協力してくださっている方々なので各種相談への確に対応していきます。相談者も次々に落ち着いた表情で退席していきました。

あっという間に時間が過ぎて、イベント終了となりました。今後は鹿児島市内だけでなく各地域でイベントの開催ができるよう企画もしようかな？なんて考えています。もし開催が決定しましたら地域の会員の皆様、ぜひご協力していただけたら幸いです。その地域で支援が必要な方々を1人でも多く知り、地域のSTで支え合うことができたならとても良いですね♪

今回も協力してくださった発達部員および広報部員の皆様ありがとうございました。



財務局

会員各位

平素より県士会活動にご協力賜りありがとうございます。
財務局担当 無所属 鎮守美和です。

今年度の会費の引き落としを先日行わせていただいております。
ご不備ございましたら、お知らせください。
また領収書をご希望の方はご連絡いただけますとお送りいたします。
口座を登録されていない方は県士会の口座までお振込みをお願いいたします。
(引き落としをご希望の方は登録用紙をお送りいたしますのでご連絡くださいませ)

今年度より日本協会との会員の一致化を図る目的もあり、
島嶼地域の会員の方にも会費の納入をお願いすることとなっております。
ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご不明な点やご要望ございましたら、
財務局メールアドレス
kago_st@yahoo.co.jp
までご連絡ください。対応させていただきます。
よろしくお願い申し上げます。

☆編集男紙☆

会員各位

平素よりお世話になっております。

朝夕の涼しさに、少しずつ秋の訪れを感じる季節となりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

言語聴覚士として臨床に出て、早いもので約6年が経ちました。また、現在の職場に転職してから
も、まもなく1年を迎えようとしています。

新しい環境で多くのことを学び、自分自身の臨床を振り返るきっかけにもなりました。これからも一
つ一つの経験を大切に、患者様に寄り添った支援がでいるよう努めていきたいと思ひます。

末筆ながら、皆様のますますのご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

編集担当 広報局 米倉 拓哉